

企画力、実践力、コミュニケーション力が身につく

社会教育主事課程 (社会教育士)



社会教育主事の資格（社会教育士）を取得すると、次のようなメリットがあります。

教師としてのメリット

地域と連携した教育活動の、知識や洞察力が身につく

小中学校では コミュニティ・スクール、地域学校協働活動で活躍
高等学校では 「公共」「総合的な探究の時間」の授業で活躍

(注) 文部科学省は「社会に開かれた教育課程」を推進し、そのために教師が社会教育士を取得することを奨励しています（「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」令和3年1月28日、88頁より）

企業人、公務員としてのメリット

教育の側面から社会をリードする力が身につく

企業人として 教育市場の開拓、職場の人材育成、CSRなどで活躍
公務員として 住民との協働による地域づくりで活躍

(注) 社会のあらゆる組織・機関の維持・発展には「教育（学び）」が組み込まれています。社会を教育の側面から向上させるための知識と実践力が身につきます。

※ CSRとは Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会的責任」を指します。現代の企業には、人権の尊重、環境への配慮、地域社会への貢献など、社会の多様なニーズに応える責任があり、これらの責任を果たすことが企業発展の不可欠な条件となっています。

社会教育主事とは、都道府県や市町村の教育委員会で仕事をする専門的教育職員です。青少年教育やまちづくりに関する教育の計画づくり、学習・スポーツ・レクリエーションの活動を行う人たちへの助言や指導、学校と地域との連携の促進など、さまざまな場面で活躍します。

社会教育主事課程を履修すると、「社会教育士」という称号も取得できます。「社会教育士」は、名刺や履歴書に称号として記載できます。そして、今後の持続可能な社会をつくるために、学校、企業、行政機関などで活躍することが期待されています（詳細は右のQRコードより）。

文部科学省「社会教育士」HP



卒業生の声より

リーフレット「企画力、実践力、コミュニケーション力が身につく社会教育主事課程（社会教育士）」から抜粋

野村 千裕 さん（横浜市公立小学校教諭）

社会教育主事課程の授業や体験では、学校と地域の連携の大切さや学びは生涯にわたって続いていくこと等、多くのことを学びました。

現在、小学校教員として働いている中で、学校は保護者の方やPTAの方、地域の方、施設の方等、多くの方々のおかげで成り立つことを実感し、まさに学んだことが役に立っていると感じています。引き続き、教員という立場から子どもたちに学ぶことの楽しさや人と協力することの大切さを教えていきたいと思っています。

戸川 みなみ さん（（株）古島勤務）

私は専門商社の営業事務として働いています。納期の管理や価格交渉等、計画性や主体性、コミュニケーション力を問われる場面が多く、何気なく履修した社会教育主事課程での経験が大きく生きています。

とくに、社会教育実習では地域の方々との出会いにより視野が広がり、自ら考え発信することの楽しさや難しさを痛感しました。これらの経験は社会を知る好機となり、社会人になった今にも通ずる、かけがえのない財産になったと感じています。

榎 佑奈 さん（東京都国分寺市公民館勤務）

学びは座学に限らず、また年齢や性別も問わず一生続くものであると、社会教育主事課程や自身の地域活動の経験を通して知り、多世代が学び合える場に携わりたいと思いました。

現在は公民館で、住民の自主的な活動が円滑にできるよう支援したり、講座や公民館まつりなどの事業企画に携わったりしています。地域の方々のニーズを探り、それらにあった支援や企画をすることは難しくもありますが、とても楽しくやりがいのある仕事です。

資格取得者調査より

社会教育主事資格を取得した学生に対するアンケート調査の結果（2022年3月）から抜粋

社会教育主事課程で学ぶことで身についた力は、企画力97%、コミュニケーション力75.7%、実践力81.9%となっている（いずれも、身につけることが「できた」と「ほぼできた」の回答率の合計）。卒業後の活躍が期待される。